

MVP受賞、その瞬間

11月19日、市役所本庁舎3階講堂。会場とオンラインでつないだ市民や関係者、会場に詰め掛けた職員・議員らが見守る中、米大リーグアメリカンリーグのMVPに「SHOHEI OHTANI」の名前が呼ばれると、大きな歓声が湧き上がりました。

スティックバールンを打ち鳴らし、「やった!」「おめでとう!」、そして「ありがとう」と、目に涙を

ためながら喜び姿もありました。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、暗いニュースが多かった昨年。郷土のヒーロー大谷翔平選手の快挙に、感謝と祝福の声が相次ぎました。

市では早速、大谷選手のMVP受賞を記念した横断幕を市役所庁舎に掲げ、市民の皆さんと受賞を喜びました。



岩手日報3年9月21日付

雄たけびを上げながら投げ込む大谷翔平選手

2021シーズンの軌跡

— 103年ぶりの快挙に迫る —

投打二刀流の復活

打って、投げて、そして走った。楽しそうに野球をする姿が印象的だった2021シーズンの大谷選手は、投打の二刀流で日米のファンを驚かせる活躍を見せました。

野球の世界最高峰といわれる米大リーグで、投手と打者の二刀流で活躍(20試合で投打同時出場)。先発投手として9勝、防御率3.18、打者では46本塁打、100打点、26盗塁を記録し、文句なしの活躍となりました。

大谷選手は、平成30(2018)年10月に右肘を、令和元(2019)年9月には左膝の手術を受けました。その影響もあり、思うような結果を上げられずにいましたが、4年目となる昨年、投打の二刀流で完全復活を果たしました。

ホームラン王まであと一歩

昨シーズン打者として、46本ものホームランを放った大谷選手。そのうち、前半戦だけで33本を放ち、シーズン序盤から後半までホームラン王争いで首位に立ちます。最終的には1位の選手と2本差の3位と、惜し

シーズン通算成績 — SHO TIME —

【投手】		【打者】	
23試合	9勝2敗	打率	2割5分7厘
投球回	130回 1/3	本塁打	46
防御率	3.18	打点	100
奪三振	156	盗塁	26

くもホームラン王は逃しましたが、日本人選手では過去最多となるホームランを放ちました。

また、野球の神様と称されるベーブ・ルース以来103年ぶりとされる「2桁勝利、2桁本塁打」まであと1勝のところまで迫る活躍をみせ、私たちが最後の最後まで楽しませてくれました。



岩手日報3年10月5日付

右越え本塁打を放ち笑顔でダイヤモンドを回る大谷翔平選手

ダイヤモンドを回り、そして、笑った。

岩手日報社
編集局報道部写真班 記者



桜岡 流星 さん(24)

★9月上旬～10月上旬に現地取材

紙面を通じて、大谷選手の様子を届けたい——。緊張しながらも数多くのシャッターを切りました。約1カ月の取材で、一番思い入れのあるシーンが左側(P7)の写真です。

10月3日(現地時間)の最終戦、第1打席で放ったホームランは、打った瞬間にそれと分かる会心の当たり。安打や本塁打がなかなか出ずに苦しんでいた時期で、険しい表情が多く見られていた中で飛び出したホームラン。ダイヤモンドを回り、3塁ベースを蹴ったところから出た“飛びつきり”の笑顔が印象的でした。

今季もプレッシャーを感じるとは思いますが、「笑顔」で野球を楽しむ姿を見せてほしいと思います。

満票での受賞は6年ぶり快挙

1年間のシーズンで、最も活躍した選手を表彰する最優秀選手(MVP)。このMVPは、全米野球記者協会の記者30人による投票で決定します。

大谷選手は2021シーズン、投手で「9勝」、打者では「46本塁打」という投打の二刀流で活躍しました。過去に例をみない投打での活躍が認められ、記者全員から1位票を獲得。大リーグでは6年ぶり、日本人では初となる「満票」でのMVP受賞となりました。

米大リーグには、地域の異なるアメリカンリーグとナショナルリーグの2つのリーグがあります。大谷選手が所属するロサンゼルスエンゼルスは、アメリカンリーグに所属。MVPは、両リーグから1人ずつ、世界でたった2人しか受賞することができないとも栄誉のある賞です。

日本選手での受賞は、平成13(2001)年のイチローさん以来2人目の快挙です。